



新しい仲間や楽しみに出会う 「終の住処」づくり

介護付き有料老人ホーム「ジョイステージ八王子」は開設して18年になります。運営会社である(株)エヌエムライフは旧ニチメン(現在の双日株式会社)の頭文字「N」と、(株)松村組の頭文字「M」を社名に冠して、2社の出資により設立された会社です。「100歳まで元気に生きよう」をスローガンに、入居者の「終の住処」となることをめざしています。ホームは東京都八王子市の街並みを眼下に、背後には奥多摩の山々の眺望を楽しむことができる月夜峰の高台にあります。

有料老人ホームに入居する方の一番の関心事は日常生活動作(ADL)が低下しても、不安なく生活を続けられるかどうかということだと思います。そのために、医療・看護・介護・リハビリテーションの提供に力を入れています。建物内にある松本クリニック(協力医療機関)の松本医師の指示のもとで、訪問診療だけでなく、内科・心療内科・整形外科・循環器や生活習慣病の専門医に日を決めて診察に入らせていただいています。そのほかにも訪問歯科診療や眼科、泌尿器科の医師による往診もあります。看護師の24時間常駐体制も完備しています。リハビリでは、理学療法士、作業療法士が3人体制で毎週月～金曜日の間、入居者の運動機能の維持・回復に取り組んでいます。毎週月・木曜日に開催するリハビリ体操の参加者は毎回40人を超え、一番の人気プログラムになっています。

当ホームでは、看取りは特別なことではありません。過去5年間では、退去者のうち74%の方をホームで看取り、残りの26%の方は病院等で亡くなりました。ホームで亡くなった後に、ご家族や、入居者、職員でお見送りするお別れ会は「終の住処」の本当の姿を映しているように思います。死亡退去者の83%がお別れ会を行っています。

当ホームでは、入居者から運営懇談会や懇話会では発言しにくいというご意見があり、月に一度、小グループによる茶話会を開催しています。今年は誕生月ごとに小グループになって、あらゆるご意見をお聞きし、そのなかで重要なことやホームとして考え方を明確に

すべきテーマを、毎月開催する懇話会で報告しています。たとえ小さな声であっても、とても重要な課題や運営のヒントが示唆されており、つねに耳を傾けていかねばならないと考えています。

入居者にとって毎日の一番の楽しみはやはりお食事です。寿司バイキングなどのイベント食は大人気で、旺盛な食欲に圧倒され、とても老人ホームの食事風景とは思えません。この日に合わせて団らんの食事を楽しまれるご家族もいて、イベント食が家族とのコミュニケーションを盛り上げています。月2回開催する学びの場「こげら塾」では、八王子生涯学習コーディネーター会のご支援もいただき、楽しい講義が1年先まで予定されています。

ホームが発行する季刊誌に入居者との対談を掲載していますが、そのなかにヒントを見つけました。「ジョイステージの皆さんと一緒に生きていることに運命のようなものを感じます。関わってくださる方が誠実に仕事をしてられるし、すばらしい人との出逢いがあると思って今日も生きていると思っています」(K様)。「このホームで看取ってもらうことが最大の関心事であると思っていただいていると思います。平穏に暮らすこと、寝たきりにならずにこうして生活できていることに感謝しています」(H様)。

このような声がたくさんいただける施設をめざし、高齢者住宅経営者連絡協議会の会員として、ほかの会員の方々からも学ばせていただきながら、今後も努力してまいります。

舛田典勇

ますだ・のりお

●PROFILE

東洋エンジニアリング株式会社等を経て平成20年6月、双日株式会社に入社。同年6月に株式会社エヌエムライフ代表取締役社長に就任。

